令和8年度事業計画（各地域包括支援センター重点項目抜粋）

別紙1

包括名	アクティビティ	アウトプット	初期アウトカム（令和8年度末）	中期（令和8年度末）
初月・鏡	**いきいき百歳体操会場の新規立ち上げ支援** ・SCと看護師が住民向け介護予防教室を企画開催して、現在体操会場のない空白エリア（一ツ橋・円行寺）の住民の介護予防に関するニーズを把握し、ニーズに合わせた提案を行う	・介護予防教室の開催　年間2回以上（2ヵ所以上） ・介護予防に関するアンケート調査　　年間2回　合計30人対象 ・介護予防教室でのグループワークの実施　年間2回	体操会場がない空白エリア（一ツ橋・円行寺など）の住民が介護予防教室を通して、介護予防に関する意識や現状を自覚・共有し、体操会場の立ち上げ等介護予防につながる取り組みをしたいと感じるようになり、ニーズに合わせた提案を受けることで前向きに実現に向け努力できる いきいき百歳体操会場の新規立ち上げ　1会場	◇高齢者が自立した生活を維持するための効果的な体操として，いきいき百歳体操のことを知っており，虚弱となる前の早い段階から体操に参加できている ◇いきいき百歳体操がどこで開催されているか市民に分かりやすく情報発信していくことで，体操参加者が増え，いきいき百歳体操の活性化につながっている ▸いきいき百歳体操参加者数　9000人/年（65歳以上人口の9%）
鏡	いきいき百歳体操の普及啓発　　①民協等地域の方が集まる場で、現在の介護保険の窮状と、いきいき百歳体操の介護予防効果について話し、地域の体操会場を盛り上げることの必要性を説く ②地区会にアプローチし、いきいき百歳体操のチラシを地区内の回覧板で回してもらう ③いきいき百歳体操のチラシを体操会場以外（サロン等）集まりの場で配布し勧める ④SCが住民を対象とした体操体験会を企画開催する ⑤総合相談対応の中で、従来サービス対象外と判断された住民に対し、いきいき百歳体操の参加にフレイル予防効果があることを説く ⑥住民が多く集まる機会を利用してフレイル予防の普及啓発を行う	①地域の方が集まる場での説明実施　民協　年間1回　地区会　2ヵ所以上 ②地区長に依頼し、地区会の回覧板でチラシをまわしてもらう　2地区会以上 ③集まりの場でのチラシの配布説明　　年間2回（2ヵ所） ④体操体験会を開催　年間1回（1ヵ所） ⑤従来サービス対象外と判断された住民へいきいき百歳体操の効果を説明　年間5人 ⑥フレイル予防の啓発チラシの配布説明 対象：75歳以上の高齢者　20人以上　啓発回数：2回以上（婦人会・ 老人クラブ・草峰なかよし会など）	・説明を受けた住民がいきいき百歳体操が高齢期の介護予防に効果的な筋力運動であることを知っている ・説明を受けたりチラシを見た住民が地区内の体操会場について（場所・時間・連絡先等）知っている ・体験会に参加した住民が効果を実感したことで、体操に取り組んでみたいと感じるようになる ・文化祭等行事に参加した住民がフレイル予防について知っている 　いきいき百歳体操　年間　10人増える	
長浜・御畳瀬・浦戸	・相談時に介護予防をいきいき百歳体操へ参加することで得られる効果や必要性を説明して、介護予防を自分事として捉えていける仕組み作りができる。	・いきいき百歳体操が始まった体操会場　　1会場 ・いきいき百歳体操会場につながった事例　10件	・参加者同士が、介護予防を自分ごとと捉え、お互いに誘い合えるようになっている。 ・高齢者が無理なく徒歩で通える範囲で定期的に介護予防活動に参加し、心身機能の維持や閉じこもり予防につながって住民同士の支え合いの場となっている。	◇支援体制の強化が図られ，既存のいきいき百歳体操が住民主体で継続していくことができている ▸体操廃止会場の減少 ▸いきいき百歳サポーター新規養成数92人→180人
旭街	◇いきいき百歳体操新規会場の設置 ・介護申請の相談時に、状態を確認し、百歳体操がフレイル予防に効果的であると説明する。 ・石立地区に百歳体操会場が少ない。地区の民生委員や町内会と連携し、ニーズ調査や役割を担える人材の発掘を行う。 ・学校、企業、民間団体等、協力可能な資源の発掘 　石立周辺。ヤクルトも検討。	◇百歳体操会場の新規開催 ▸民生委員や町内会の方と顔の見える関係性づくり、からのニーズ調査　3回 ▸社協CSWと連携し世話役探し　1人以上 ▸挨拶回り（北高、近森人形、はるやま、パチンコ屋）　1回以上 ▸ヤクルト周辺でのニーズについて、CMにアンケート調査　1回/年	◇石立地区の住民が百歳体操の効果を実感し、民生委員や町内会と連携して検討を進める事で、百歳体操会場が立ち上がる。 ▸いき百登録者数が685人から750人になる ▸石立地区に1か所	
鴨田	【地域介護予防活動支援事業】 ◇本村公民館でのいきいき百歳体操新規会場立ち上げ支援を行う ◇有料老人ホームあっとホームの地域交流室でのいき百での活用を検討する	◇新規体操会場：1ヵ所 ▸会場設立のニーズ把握	◇体操会場が立ち上がることで、住民同士の交流や介護予防への意識が高まる ◇地域に開放されている場所を知る事で、いきいき百歳体操の立ち上げ支援や会場移設など必要性に応じて活用することができる	
秦	◇健康講座の開催 ・啓発ツールとして「ももじぃ」のフレイル予防版を作成し、通いの場などで講座を開催	◇健康講座の実施 ▸2回/年	◇地域住民が健康講座を受講したことで、健康意識が高まり，介護予防に取り組みたいと思う住民が増える ▸実施後アンケートで「リエイブルメントの理解が深まった」と回答する方　50%以上	◇地域住民が健康やフレイル予防の必要性を理解し、日常生活の中で介護予防に取り組むようになる。 ◇自ら継続して健康づくり活動や地域の介護予防活動に参加する住民が増える。
朝倉	薬管理の地域課題（薬の飲み方、飲み忘れ、重複服薬、残薬などの課題）を抽出し解決策を検討、事業化する ▸圏域内の薬局に意見交換会を働きかける ▸圏域内の薬局と朝倉包括で意見交換会開催 ▸解決策を検討し実施	▸意見交換会を働きかけた圏域内薬局　10ヵ所 ▸薬局と地域包括の意見交換会　年1回以上 ▸薬管理について整理された課題の解決策を事業化し実施　年1回以上	◇薬管理の課題を把握し問題意識を持つ住民や関係機関が増える	◇地域住民や関係機関が薬管理の課題を共有し、適切な服薬や見守りに向けた対応を考えられるようになる。 ◇薬の適正使用に向けた相談や支援につながり、服薬支援の連携が定着することで、住民が安心して暮らせる体制づくりが進む。
下知・五台山・高須	①下知地区の住民（民生委員、町内会、医療機関等）に会議参加を呼び掛ける ・自立支援型地域ケア会議 ・地域づくり推進会議	▸自立支援型地域ケア会議：年3回　・各回1名以上 ▸地域づくり推進会議：年3回　・各回1名以上	①地域住民が地域にある課題を知り関係機関と一緒に考えることができる。	
三里	①十津1丁目の支えあいマップであがった情報の整理と課題抽出を住民と検討できる ②三里ネットワーク会が維持でき、移動カフェの効果について検討できる ③地域の高齢者で多世代交流を目指して地域交流活動の計画・準備・実施の支援	①十津1丁目支えあいマップの情報整理・振り返り会　1回 ②三里ネットワーク会への参加　毎回 　移動カフェへの参加　毎回 　移動カフェ振り返り会の開催　2回以上 ③種崎地区で高齢者と保育園の園児が交流する機会を設ける：年2回	①十津1丁目の住民と一緒に現状把握と今後について検討する機会をもつことができる 　活動に協力してくれる人材の発掘ができる　1名以上 ②移動カフェをきっかけに住民同士の関わる機会が増える ③多世代交流の良さが伝わることにより他地域の協力機関が増え、今まで手の届かなかった要支援者のケアができる（高齢者の自己効力感向上による生きがい作り）	◇地域課題ごとのテーマに応じた市全域での協議ネットワークが構築され，関係機関・団体が連携して具体的な課題解決に向けた協議を行い，その成果が政策形成へと反映される仕組みが機能している ▸第2層協議体開催回数155回→252回以上 ▸第2層協議体などのネットワークの構築が進む ◇第一層と第二層のSCの連携により，新たな社会資源の創設ができる 　3事例以上
潮江	◇地域の薬剤師との関係性の強化と、地域づくりについて考える会の場づくりの構築 ▸地域の薬剤師・栄養士との連携 ▸地域課題について話し合う場	◇地域の薬局、栄養士との連携 ▸住民が通いやすい量販店等で食（栄養）と薬についての催しの開催　1回/年 ◇地域課題について話し合う場 ▸課題の共有　　5回/年 ▸取り組み実施　随時	◇地域住民が催しに参加することで、食と薬の知識を深め　健康行動につながる働きかけを行う。 ▸食生活の問題点が分かり、改善しようと思う人が、アンケート記入者数の60%以上 ▸薬についての理解ができ、正しく服用したいと感じた人が、アンケート記入者数の60%以上 ◇定期的に薬剤師や栄養士と課題を共有する場があることで、関係機関との関係性の強化、課題解決に向けて取り組むことで、地域住民が安心して生活することにつながる。 ▸課題の共有と取り組み実施　5回/年	
南街・北街・江ノ口	・江ノ口地区ほおっちょけんネットワーク会議を4回/年開催、地域課題（孤食・低栄養、地域住民との関係が希薄）を共有し、課題解決に向けて取り組む	▸地域の方々で食事ができる集まりの場　1か所 ▸地域の集まりの場（趣味活動、世代間交流）の場　1か所	◇地域課題の解決に向けて，担当圏域で住民団体及び関係機関が連携し、課題を共有・協議できるネットワーク体制が構築されている ▸他者と食事をすることで食事に対する意識が変化したという声が聞ける　（アンケート実施） ▸江ノ口地区の住民が世代を超えて交流ができる　参加者10人	
大津・介良	・介良潮見台地区にあるハロールーム（公民館に準ずるもの）の活用について、地域の関係機関と意見交換する	▸ハロールームの活用について潮見台地区の町内会長や地域の方との話し合いをする　2回/年	ハロールームが活用できるようになる	◇高齢者の望む自立した在宅生活と，それを阻害している要因の実態把握ができている ◇個別の課題から地域課題を抽出し，地域包括担当圏域を対象範囲として，生活支援コーディネーターを中心に多様な主体が参画し，情報共有・ネットワークの構築・連携体制が図られている ▸生活支援コーディネーターの介入により第2層協議体（ネットワーク）の構築の新設又は活動活性化に繋がった活動数　各地域包括圏域で1件以上
春野	◇多世代交流の機会が少ないという地域課題に対して、音楽を通してつながり、楽しむことができる多世代交流の場を、地域住民や民生委員、ちょいふる（アンサンブルバンド）と協力し、創出・確保する。多様な楽団に協力いただく事で、活動団体と地域住民がつながり、地域貢献の機会を創出できる。 　また、各地区の公民館や高齢者施設を訪れることで、移動手段が限定される方でも参加しやすいよう工夫し、地域ごとの活性化にも取り組んでいく。	▸多世代交流音楽会開催：2回/年。 ▸音楽会チラシ配布枚数：500枚以上。 ▸運営会議の実施：2回/年。 ▸ちょいふる（アンサンブルバンド）以外の協力活動団体：2団体/年。	◇春野町内の各公民館や高齢者施設を利用し音楽会を開催することで、その地域内の高齢者のみならず子どもから成人まで多世代間の交流機会を創出できる。地域内の顔が見える関係を音楽を通して構築でき、社会的な孤立を予防につながる。 ▸多世代交流や高齢者を中心とした憩いの場に来る地域住民が増える。（100人以上/年）	◇地域の実情や高齢者一人ひとりのニーズに基づいて，関係機関や住民との協働により，多様で効果的・効率的な介護予防・生活支援サービスが地域で展開されている ◇市民や専門職が，地域包括支援センターの役割や事業内容を理解し，積極的に活用・連携する体制が構築されている ◇訪問型サービスC事業利用促進会議などを通じて，地域のニーズを的確に把握し，多様な関係者と連携しながら，地域課題に対応したサービスや活動を企画・創出する体制が整っている ▸訪問・通所A：3事業所→新規市内5事業所 ▸訪問・通所B：4事業所→新規市内10事業所 ◇地域のニーズに応じた、生活支援体制整備について、10期計画に反映されている。
上街・高知街・小高坂	ミーティングセンターの継続開催	ミーティングセンターで、認知症ご本人とそのご家族の想いややりたいことを実現した催しを行う：年10回以上	・ミーティングセンターの安定した開催ができ、ミーティングセンターをきっかけに、家族関係が修復されたり、ご本人に笑顔になる機会が増える。 ・できなかったことができるなど、ご本人の行動変容につながる ・当事者やご家族同士の繋がりができ、悩みや不安を笑いに変えれる場所・癒しの場所としての機能を果たすことができる	◇ 本人・家族の意見が地域活動や事業企画、計画策定に反映されている。 ◇ 本人発信を契機として、認知症の人にやさしい取組を行う企業や団体が増加している。 ◇ 第10期計画等に本人・家族の意見が具体的に反映されている。 ▸ 政策・事業へ反映された件数 ▸ 企業の取組数
布師田・一宮	・ミーティングセンター開設に向け認知症本人や家族が自身の体験や悩み、やりたいことを共有できる場の提供をする。	▸本人・家族が集えた回数：6回	◇ミーティングセンターが本人・家族が自分のかなえたい事や悩みを言える場であることを知ることができる。 ▸当事者・家族の人数4名以上	
とさやま出張所	認知症の方も参加しているたきゆりカフェの運営を継続する。	◇周知：村内放送・チラシ（令和8年度）上半期・下半期　全数配布 ◇運営を行う　　年5回 ◇実行委員会開催　年5回 ◇チラシを地域の店舗にも配布◇認知症の相談窓口であることも周知	◇地域の住民が、たきゆりカフェに気軽に参加できる　各回3人以上	◇ 認知症カフェが継続開催され、本人・家族が定期的に参加できる場として定着している。 ◇ 認知症カフェを通じて、本人・家族同士の交流機会が確保されている。 ◇ 認知症カフェが専門職・住民との顔の見える関係づくりの場として機能している。 ◇ プレ開催を経た取組が本格実施へ移行している割合が増加している。 ◇ 地域のニーズを踏まえた新規創設が進んでいる。 ▸ 認知症カフェ開催箇所数の増加 ▸ 継続開催率 ▸ 参加者数の増加 ▸ 参加者アンケート満足度 ▸ 新規創設地域数